学生サークル「もの・まちづくりサークル縁」
―地域に根差した継続的な取り組みを目指して

高澤 由美　山形大学

1. はじめに

2016年4月山形大学工学部に建築・デザイン学科が新設された。学生数は1学年30名と小規模だが地元の建築家や企業，自治体などの協力を得ながら地域密着の教育・研究を展開しているのが特徴だ。学生も教員も新しい環境で試行錯誤の取り組みを積み重ながら設置5年目を迎えている。そのようななか，建築・デザイン学科の学生が中心となり「もの・まちづくりサークル縁（えん）」が立ち上げられた。地域に根差した継続的な活動を目指してチャレンジする彼らの取り組みを紹介したい。

2. サークル立ち上げの経緯

「もの・まちづくりサークル縁（以下，「縁」と記す）」は2020年10月に当時3年生の有志によって立ち上げられた。コロナ禍でオンライン講義が続き交流が減っていたこと，またインターンや設計コンペに参加するなかで全国の多様な学生に接し刺激をうける機会が増えたことなどが重なり，実践的な力を身につける場としてサークルの立ち上げが具体化した。また講義のフィールドワークなどで築かれつつある地域とのつながりをより深めたいという思いも原動力となったようだ。初代代表のひとり，佐々木くんは，「縁」という名称に込められた意味を次のように説明する。すなわち，サークルへの参加目的も活動の方法も様々でよく，いろいろな視点を持つ人を受け入れ「縁」で根幹がつながっている，「縁」を通して地域貢献やスキルアップができる，そんな活動主体を目指したい，と。2021年7月現在，「縁」には建築・デザイン学科の学生78名が参加し，大所帯サークルとなっている。関心のある活動にときどき参加する学生もいれば，積極的に企画・実践に取り組む学生もいて，それぞれがゆるやかにつながりながら互いの立場を尊重する場になっているようだ。

3. 地域密着・学び合いの活動

現在の「縁」の主な活動は，「まちの維持や保全のお手伝い」と「学び合い」である。

「まちの維持や保全のお手伝い」は現在，上山市と米沢市が主なフィールドだ。上山市では空き店舗や空き家の活用に継続的に関わっている。例えば空き店舗を活用して模型の展示会を行ったり，地域のこども達と一緒に空き店舗の塗装作業を行ったり，老朽化した空き家改修の施工の手伝いも行っている。

3年生の藤井さんは上山での活動に積極的に取り組んで楽しんでいる。空き店舗の塗装作業に参加した際は，ペンキの調合や塗る手順などを地域の専門家から教わるなど，コミュニケーションを介して座学では得られない実践力がつくことを実感しているという。

一方「学び合い」の活動では，学年縦割りでの模型づくりや，CADソフトや編集ソフトの勉強会を実施している。できるだけ早い時期から建築に関わる多様なスキルを高めていたいという真面目な山大生らしい取り組みだ。地方にいるとどうしても他大学の学生などとの「他流試合」が難しい。他学年が交わりそれぞれの学生がもっている情報やスキルを共有する場として機能することが期待されている。

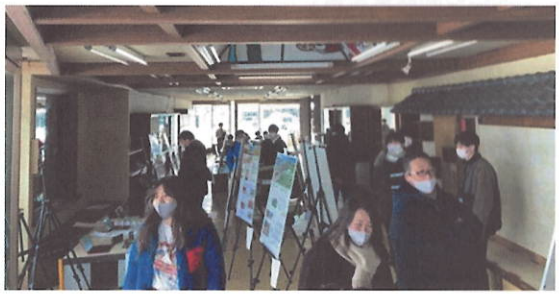

写真1　上山市での模型展示会（2020年12月）

写真2　空き家改修の様子（2021年4月）

4. おわりに

学生が地域づくりに参加することは珍しくなくなった。しかし，ともすると主体性が薄くなっていつの間にか地域のイベント要員になっていたり，学生の思いが強すぎて地域との齟齬がみられたり，なかなか良いバランスで活動するのは難しい。地域にとっても学生にとっても良いバランスを模索しその時々で変化しながらも「縁」の活動が継続できるよう後方支援していくことが我々教員の役割なのかもしれない。